

第1回 誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ  
議事次第

令和7年12月18日（木）10:00～12:00

Web会議（場所：中央合同庁舎第3号館3階 国土交通省総合政策局打合せスペース2）

1. 開会

2. 議事

- （1）「誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ」の設置について
- （2）バリアフリー整備ガイドライン（旅客施設編）サインに関する記載内容について
- （3）過年度調査によるサインに関する課題等について
- （4）本WGにおける調査内容について

3. 閉会

---

資料1. 「誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ」の設置について

資料2. バリアフリー整備ガイドライン（旅客施設編）サインに関する記載内容の整理

資料3. 過年度調査によるサインに関する課題等の整理

資料4. 本WGにおける調査内容（案）

## 「誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ」の設置について

令和 7 年 12 月 18 日

### 1. 趣旨

令和 5 年度に開催された移動等円滑化評価会議において「当事者目線に立ったバリアフリー環境の課題等に関する最終とりまとめ」をとりまとめ、その中で速やかに取り組む課題の一つとして、案内設備（①バリアフリールートの把握のしやすさ、②経路誘導に関するサインシステム等、③音声案内等のわかりやすさ）が挙げられ、「公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会」等において、具体的な検討に着手することとなっていることから、現行ガイドラインの内容充実化を目的として、「誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ（以下、本WG）」を設置する。

### 2. WGについて

#### （1）検討内容

案内設備に関する検討事項のうち、①バリアフリールートの把握のしやすさ、②経路誘導に関するサインシステム等については、本WGにおいてガイドライン改訂の検討等を行う。

#### （2）検討スケジュール

- ・ 第 1 回WG：令和 7 年 12 月 18 日（木）
  - ・ 課題整理・検討の方向性（実態・ヒアリング調査実施）を提起
- ・ 第 2 回WG：令和 8 年 2 月～3 月
  - ・ 実態・ヒアリング調査結果の報告
  - ・ ガイドラインに記載すべき内容等検討
- ・ 第 3 回WG以降：時期未定 ※全 3 回程度開催予定

### 3. 構成員等

本WGは、学識経験者、障害当事者であってサインシステム等に精通されている方、行政機関の実務者により構成する。本WGの構成員は、別添のとおり。

事務局：国土交通省総合政策局共生社会政策課、社会システム株式会社

(別添)

## 第1回 誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ

### 構成員名簿

(敬称略・順不同)

|        |                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------|
| 松田 雄二  | 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授                                  |
| 吉田 樹   | 福島大学 教育研究院 教授(経済経営学類担当)<br>前橋工科大学 学術研究院 特任教授(クロスアポイントメント) |
| 丹羽 太一  | 東京大学大学院 経済学研究科・特任研究員                                      |
| 東 秀忠   | 山梨学院大学 経営学部 経営学科 教授                                       |
| 丸山 泰彦  | 公益社団法人日本網膜色素変性症協会東京 副会長                                   |
| 柴田 留理  | 元特別支援学校教諭                                                 |
| 竹島 恵子  | 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 企画調査部 参事                            |
| 萩野 美有紀 | TREI(ティーレイ)株式会社 専務取締役                                     |
| 小幡 章博  | 国土交通省 総合政策局 共生社会政策課 課長                                    |

オブザーバー：秋山 哲男 中央大学 研究開発機構 機構教授  
国土交通省関係部局

# バリアフリー整備ガイドライン(旅客施設編) におけるサインに関する記載内容の整理

---

## 移動等円滑化された経路(バリアフリー経路) の考え方

- 高齢者、障害者等の移動等円滑化に配慮し、可能な限り単独で、駅前広場や公共用通路など旅客施設の外部から旅客施設内へアプローチし、車両等にスムーズに乗降できるよう、すべての行程において連続性のある移動動線の確保に努める。
- 旅客移動について最も一般的な経路(主動線)を移動等円滑化する。
- 主動線が利用できない非常時も勘案し、移動等円滑化された経路を複数確保することが望ましい。

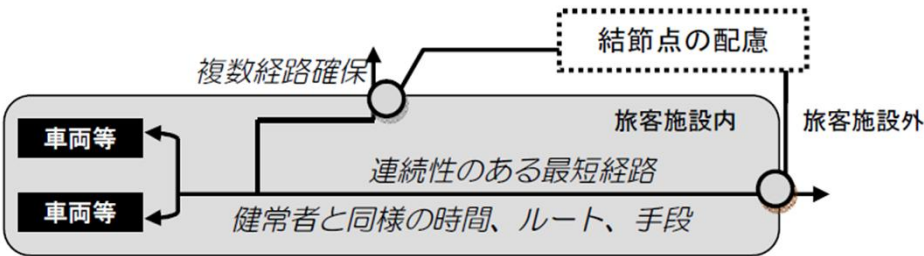


図 1-3-1 移動経路確保の基本イメージ

## 旅客施設に求められる整備内容

|                     |                                                                                                                        |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 移動経路に関するガイドライン   | 出入口、通路、スロープ、階段、エレベーター、エスカレーター等                                                                                         |
| 2. 誘導案内設備に関するガイドライン | <p>①視覚表示設備<br/>サインシステム、可変式情報表示装置</p> <p>②視覚障害者誘導案内用設備<br/>視覚障害者誘導用ブロック、音声・音響案内、<br/>触知案内図等及び点字表示</p> <p>③緊急時の案内用設備</p> |
| 3. 施設・設備に関するガイドライン  | トイレ、乗車券等販売所・待合所・案内所、券売機、休憩等設備等                                                                                         |

# サインシステムに求められる標準的な整備内容

●見やすくわかりやすい交通拠点のサイン計画の手引き(H21.3交通エコロジー・モビリティ財団)より抜粋・追記

## 視覚表示設備 基本的な考え方

視覚表示設備は、見やすさとわかりやすさを確保するために、情報内容、表現様式(表示方法とデザイン)、掲出位置(掲出高さや平面上の位置など)の三要素を考慮する。

●移動する利用者への情報提供が、誘導サイン類、位置サイン類、案内サイン類、規制サイン類の4種類のサインシステムで行われている。

誘導サイン類：施設等の方向を指示するのに必要なサイン

位置サイン類：施設等の位置を告知するのに必要なサイン

案内サイン類：乗降条件や位置関係等を案内するのに必要なサイン

規制サイン類：利用者の行動を規制するのに必要なサイン

●以下の移動等円滑化のための主要な設備の位置が、位置サインで示されている。

- 1)エレベーター、エスカレーター、階段昇降機
- 2)スロープ
- 3)トイレ
- 4)乗車券等販売所(きっぷうりば、定期券販売所 等)
- 5)待合所
- 6)案内所
- 7)休憩設備(ベンチ、待合室、授乳室等)



誘導サイン



位置サイン



案内サイン



規制サイン

# サインシステムに求められる標準的な整備内容

- 以下の構内案内図が駅の出入口又は改札口に(必要な場合は乗降場又はその付近にも)掲出されている。

- 1)移動等円滑化のための主要な設備と、ほかに必要な情報を表示
- 2)バリアフリー経路を明示



構内案内図



- サインの表示が次の方法によっている。

- 1)主要用語への英語の併記
- 2)固有名詞表示にヘボン式ローマ字つづり
- 3)文字の大きさを視距離に応じて選択
- 4)ロービジョン者等に配慮し可能な限り接近できる位置、視点の高さ、文字の大きさ
- 5)安全色とピクトグラムはJIS規格による
- 6)高齢者や色覚障害者に配慮した配色
- 7)サインの図色と地色の明度、色相又は彩度の差を大きくする等で容易に識別できる
- 8)番線表示や設備の存在を示すサインは遠方からでも確認できる大きさ



多言語表示、ピクトグラム、色など

- 乗継ぎ経路等が次の方法で表示されている。

- 1)エレベーターを経由した乗り換え経路案内を分かりやすく表示
- 2)エレベーターの設置されている出入口の位置が遠方からでもわかるよう表示



乗継ぎ経路

# サインシステムに求められる標準的な整備内容

## ●誘導サイン類及び位置サイン類が次の方法で表示されている。

- 1) 駅出入口、改札口、ホーム(○番線～行など)、乗り換え口、移動等円滑化のための主要な設備と、他に必要な情報を表示
- 2) 表示面を動線と対面する向きに、見やすい掲出高さに、照明の映り込みがないように、外光・照明などで見にくいように掲出
- 3) 改札口方面、駅出口方面など、経路を明示する主要な誘導サインは連続的に配置
- 4) 誘導サインは動線の分岐点、階段の上り口・下り口、曲がり角に配置
- 5) 位置サインは同定する施設の間近に配置

## ●構内案内図、駅周辺案内図、時刻表、運賃表などの案内サインが次の方法で表示されている。

- 1) 歩行者と車椅子使用者の双方が見やすい高さに、照明の映り込みがないように、外光・照明などで見にくいように、運賃表は券売機の近くから判読できる範囲内に掲出
- 2) 駅周辺案内図を設ける場合、必要な情報を表示



誘導サイン



誘導サイン



周辺案内図



運賃表

# 過年度調査による サインに関する課題等の整理

---

# サインに関する過年度調査

- 「当事者目線に立ったバリアフリー環境の課題等に関する最終とりまとめ」作成のため、障害当事者及び鉄道事業者に対し、アンケート調査や現地調査、意見交換会を実施（令和4～5年度）

## 令和4年度調査

### 当事者

鉄道利用時の困りごとに関するアンケート及び意見交換

|    |                                                                    |
|----|--------------------------------------------------------------------|
| 概要 | 現在のバリアフリー環境の課題等を把握するため、 <u>鉄道駅を利用する際の困りごと等</u> について横断的なテーマを定め意見を聴取 |
| 対象 | 障害当事者団体・関係団体（25団体）                                                 |

### サインに関する調査項目

- ウェブサイト等の情報提供
- 電車の運行情報の案内
- BFルート、移動経路の連続的な案内、デザイン
- 設備等のアクセシビリティ
- 設備の情報保障
- 緊急時の情報提供

### 当事者

鉄道駅の現地調査及び意見交換

|    |                                             |
|----|---------------------------------------------|
| 概要 | 鉄道駅における移動経路や施設について、 <u>当事者の目線からご意見をいただく</u> |
| 対象 | 障害当事者、学識経験者等（7名）                            |

## 令和5年度調査

### 事業者

バリアフリー整備状況等に関するアンケート

|    |                                                         |
|----|---------------------------------------------------------|
| 概要 | 様々な規模・地域の鉄道事業者におけるバリアフリー整備状況の現状や整備の基本的な考え方、工夫や課題等について把握 |
| 対象 | 鉄道事業者（約40社）                                             |

### サインに関する調査項目

- 経路誘導に関するサインシステム等
  - ①ガイドライン適合状況
  - ②分かりやすい表示内容や掲出位置等とするために工夫したポイント
  - ③デザインや掲出位置に関して、計画する際に課題となった箇所
  - ④サインシステムについて、課題は認識しているが現状改善できていない点
  - ⑤混雑時の一般利用者と障害者の動線の交錯を防ぐための工夫

※バリアフリー整備が相当程度進んでいる鉄道駅を題材（1日あたりの平均利用者数を基準として大規模・中規模・小規模それぞれ1駅）とし、対象駅の選定・回答作成を依頼

# ①当事者からみたサインの課題

## バリアフリールートを示すサインがない・見つけづらい

- 車椅子利用者が他社鉄道乗り換え案内サイン通りに進むと、階段・エスカレーターのためのみのルートで進めなくなることが非常に多い。バリアフリールートを意識した案内サインの最低限の設置が必要。【車椅子使用者】
- 地下街のサインは基本的に歩行できる人向けのものになっており、それに従うと階段に誘導されてしまうことが多く、大回りして戻らなくてはならないことになる。地下街のバリアフリールートやユニバーサルシートが設置されているトイレ等の案内サインを整備してほしい。【車椅子使用者】

## 設備(サイン)が見つけづらい

- 駅構内でエレベーターの位置が非常に分かりにくいので、エレベーターの位置表示をもっと増やしてほしい。【車椅子使用者】【乳幼児連れ】
- 構造上やむを得ないかもしれないが、エスカレーターやエレベーターがホームの端にあることが多く、遠い、見つけるのが大変という状況がある。【高齢者】
- ホームで電車を降りたときに、多目的トイレやベビールームの場所がわからず、有無も不明確なため困る。【乳幼児連れ】
- 地下鉄で複数路線の乗り入れがない駅では、駅から地上に出る場合は案内があるのでまだ分かるが、地上から駅に入る場合は案内がないことが多く分かりにくい。【車椅子使用者】

# ①当事者からみたサインの課題

当事者

## サインが見つけづらい(広告や周辺環境)

- 駅構内の案内板や行き先板が、店の看板や広告などの情報が多すぎてわからない。【知的障害者】
- 広告と必要な情報が混在しており、情報の取捨選択において分かりにくくなっている。【認知症の人】
- 広告は鉄道事業者の収入源として大切だとは思いますが、乗り換えや出口などの移動のための案内スペースには広告を出さないようにするなど、確実に案内表示を提供していただきたい。【高齢者】
- 駅構内に店舗があるような大規模駅では、カラフルなコマーシャルによってごちゃごちゃして必要な表示が見つけにくいという声がある。【乳幼児連れ】

## サインが見づらい(設置位置)

- 床面のサインは、車椅子の場合下を向いているので見やすい一方で、人が多い場合は見づらくなる。上方のものは遠くからは見やすいが、上が見にくいという人もいる。サインの位置は上方、壁面、床面の3箇所に設置されていると良い。【車椅子使用者】
- 車椅子の場合、路面の安全、人の流れなどを見ながら電動車いすの操作を行うので、頭上や壁面の小さな案内表示を確認することが困難である。乗り換え案内やエレベーター位置等の乗降のバリアフリー経路はできるだけ床面案内や壁面の大きな掲示などすぐにわかる表示にしていいただきたい。【車椅子使用者】

# ①当事者からみたサインの課題

## サインが見づらい(混雑時)

- 混雑時に、壁に貼ってある案内情報が見えていない。壁に貼る場合でも頭の上に表示できるようにしてほしい。【聴覚障害者】
- 乗り換え時の移動案内は地面に標記されている場合が多いように感じるが、側面もしくは天井等、混雑時でも確認出来るようにしてほしい。【発達障害者】
- 混雑時でも認識しやすい表示の工夫。地面表示などは人影で見えなくなったり、たどっていく先(目的地)がどこなのかがわかりにくい。【精神障害者】

## サインの内容が理解しづらい

- 案内の看板の矢印がわかりづらい。【認知症の人】
- 鉄道会社の乗り入れにより、乗車した際の認識のまま降車すると、表示などのレイアウトの統一性がないために、混乱しやすい。【精神障害者】
- 移動誘導経路のラインがあっても、どのラインに並べば良いかわからず、ホームには係員の人もおらず、困った。【知的障害者】

|                          |                                                                                                                                                  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高齢者                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・文字が小さいと読みづらい、見えづらい色の組合せがある、まぶしさを感じる</li><li>・必要な情報を探し出すのが難しい、複雑な表現が理解しづらい</li></ul>                       |
| 車椅子使用者                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・視点が常に低い位置にあり視野が狭い、周辺の歩行者に視野を妨げられる</li><li>・良好な視野を得るために機敏に移動するのは難しい、近くを見上げるような姿勢はとりにくい</li></ul>           |
| 視覚障害者<br>(ロービジョン者、色覚障害者) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ロービジョン者: 接近して読める掲示高さ、文字の大きさや書体、周辺の明るさ等が必要</li><li>・色覚障害者: 色の組合せによっては識別が困難な場合がある、色だけに頼らない表示方法が必要</li></ul> |
| 聴覚障害者                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・音情報は得られないことが多いため、すべての場面で視覚情報が必要</li><li>・気軽に人に聞くことが難しいため、視覚情報が得られないと不安</li></ul>                          |
| 知的障害者                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・抽象的な概念が理解しにくく、単純でわかりやすい方法での情報伝達が望ましい</li><li>・臨機応変な対応が難しい</li></ul>                                       |
| 精神障害者                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・視覚情報や音などの情報量が多いと混乱しやすい</li></ul>                                                                          |
| 発達障害者                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・必要なサインを見つけられない、理解しづらい</li><li>・複雑な内容や表現の不一致などがあると混乱しやすい</li><li>・刺激が多いと情報量過多でストレスを感じやすい</li></ul>         |
| 内部障害者                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・休憩設備やエスカレーター、エレベーター、オストメイト用設備のあるトイレなどの位置情報が必要</li></ul>                                                   |
| 妊産婦・乳幼児連れ<br>ベビーカー利用者    | <ul style="list-style-type: none"><li>・人ごみの中で移動しづらい</li></ul>                                                                                    |
| 外国人                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・多言語表記、分かりやすい表現、表現の統一、ピクトグラム等が必要</li></ul>                                                                 |

参照: バリアフリー整備ガイドライン、見やすくわかりやすい交通拠点のサイン計画の手引き

## ②鉄道事業者からみたサインの課題

### 情報の量、適切な内容

- 表示する項目が多くあり、1つのサイン表示スペースに収まらない。【大規模駅】
- 求める情報はお客様により異なるため、表示する情報量の選定が課題。【大規模駅】
- サインスペースの関係で、すべてを多言語化することに課題がある。【大規模駅】
- もっとも単純な駅構造であるため、サイン設置数をどの程度抑えることができるか。【小規模駅】
- 係員が不在の時間があり、サインですべてを伝えなければならないため苦慮している。【小規模駅】
- 1階と2階に改札が有り他社への乗り換え誘導が適格か課題となった。また、EVが(降車専用ホーム)1カ所しかなく、乗車ホームへの誘導案内が課題となった。【大規模駅】

### 広告との競合

- 誘導サインと広告の掲出位置のすみ分けは課題であると考えている。社内基準でサインのゾーニングについて一定のルールを設けているが、それによれない場合もある。【大規模駅】
- 駅の規模によらず、掲出位置に関しては、目にとまりやすい場所＝広告に適した場所となるため、サインと広告の競合が課題。【大規模駅】

## ②鉄道事業者からみたサインの課題

事業者

### 掲出位置(駅の構造によるもの)

- 天井が高く、無柱空間も多いためサインの掲出箇所が課題であった。【大規模駅】
- 既存高架の構造等により天井高の確保が困難だったため、吊り下げサインを可能な限りなくすデザインとした。【大規模駅】
- 上屋が低い為、吊下式および突出式の掲示物は極力採用せず、壁面付前提に設置位置を工夫し、誘導表示を設置した。【小規模駅】
- 通路の段差等の影響で誘導サインが見えづらい場所を考慮した掲出位置の検討。【大規模駅】
- 駅の形状により天井高さや壁面などの設置スペースが異なり、統一的なサイン配置に苦慮している。【大規模駅】

### 掲出位置(事業者間、部門間の問題)

- 他社線へののりかえ誘導で、設置したい場所が当社エリアにないことが判明した。【中規模駅】
- 計画段階で異なる社内部門間の細かい調整がとりきれず、見る角度によっては誘導サイン同士が物理的に重なってしまい一方の誘導サインが見えづらくなる事態が発生する。【大規模駅】

## ②鉄道事業者からみたサインの課題

### 維持管理、コスト、設置に関する課題

- 災害対策、点検の簡素化の観点から吊下げサインを極力無くすようにしているが、駅の構造上やむを得ない場合がある。【大規模駅】
- 利用者、障害者、駅職員から床サインの設置の要望が多く、メリットも認識しているものの、耐久性や設置コストが課題【大規模駅】
- 天井が比較的高いため、吊り下げ看板は見やすい高さに下げた。そのため、吊り金物が長くなり、天井部の補強を行った。【中規模駅】

### 関係者間の協議

- 大阪・梅田駅周辺は表示内容等を共通ルールとして定めている。標準ルールによれないサイン表示などの必要が発生した場合には、多くの関係者との協議が発生するため迅速な対応ができないことが課題。【大規模駅】

## ②鉄道事業者からみたサインの課題

### 客観的な評価方法に関する課題

- サインに描かれる情報内容、表現内容、空間上の位置の3つの要素について、客観的根拠に基づいた目標値の設定(例えば、どれくらいの間隔で経路上にサインを設置すべきか、や空間ボリュームに対してどの程度の大きさのサイン盤面を掲出するかなど)が明確にはできていない。そのため、学術的な知見の整理が必要であると考える。【大規模駅】

### その他駅特有の課題

- 自治体の景観条例の対象になるエリアであったため、その内容に合致するデザインや色合いにすることを優先的に作成した。【大規模駅】
- 当該駅や隣接する他事業者駅、周辺大規模開発など継続的に工事が継続しており、出口への経路やのりかえルート、バリアフリールートが変わっている。把握できるものは想定した対応としているが、詳細が決まっていないものも多く、その都度、内容の見直しが必要になっている。【大規模駅】
- 開発工事等を起因として他社施設、一般道を経由するのりかえルートは途中で案内が途切れる場合があり、継続的な案内とならない。【大規模駅】

# サインに関する課題(当事者・事業者)のまとめ

## 当事者

- 当事者からみたサインの課題としては大きく分けて以下の3点が挙げられた。
  - 乗り換え経路にサインがそもそも設置されていない、設備が分かりにくい位置(主要経路から外れた位置等)にある、広告との混在などにより見つけづらい
  - 車椅子で視点が低い、見上げる姿勢をとりにくい、混雑時は人でサインが隠れてしまう、情報が多い等で見づらい
  - 矢印や記号等の意味、事業者ごとにデザイン等が異なることで理解しづらい

## 事業者

- 事業者からみたサインの主な課題としては以下が挙げられた。
  - 駅の状況にあわせて掲出する情報内容を選定することが難しい。
  - 設置場所が広告と競合してしまい見づらくなる、維持管理やコストの問題から表示方法に制限がある。
  - 駅の構造により設置位置や設置方法が限られる、複数部門間の調整、乗り換えでは他社との調整が必要。

# サインのわかりにくさの要因の整理(事務局想定)

## サインがわかりにくい とは？

### 障害特性に起因する要因

#### サインが見つげづらい

- ・ 視点が低い
- ・ 見上げる姿勢がとりにくい
- ・ 移動しながら探しにくい
- ・ 掲示物が多くサインを認識できない …等

#### サインが見づらい

- ・ 視力が低い、視野が狭い
- ・ 色の見え方が異なる
- ・ まぶしくて/暗くて見づらい
- ・ 色や情報が多く疲れる …等

#### サインが理解しづらい

- ・ 情報が複雑でわからない
- ・ 図や記号の意味がわからない
- ・ 情報が多く混乱する …等

### 利用者個人に起因する要因

- ・ 身体特性（身長、歩行速度など）
- ・ 公共交通の利用頻度、利用期間（サインを活用した経験値）

### サインに起因する要因

#### 情報内容

- ・ 情報が不足していて意味が伝わらない
- ・ 情報が多すぎて取捨選択できない
- ・ 矢印やピクトグラム、記号等の意味がわからない …等

#### 表現様式 (表示方法とデザイン)

- ・ 文字の大きさ、フォント、色等が不適切
- ・ 設置位置が暗すぎる/明るすぎる
- ・ 照明の反射、映り込みがある
- ・ 広告や店舗に紛れている
- ・ 接続する他社路線や施設等とデザインが異なる …等

#### 掲出位置 (掲出高さや 平面上の位置 など)

- ・ サインの数が少ない
- ・ 位置が高い/低い
- ・ サイン同士の重なり、障害物がある
- ・ 人が多くて見えない
- ・ サインが示す通路や施設がサインと離れている …等

### 施設に起因する要因

#### サインが設置できない

- ・ 他社や他モードとの乗り換え

#### 空間構成が複雑すぎる

- ・ 大規模駅、混雑駅
- ・ 工事中

### 事業者が感じている 課題

- ・ 表示する情報の選定
- ・ 駅の状況に応じた適切な情報内容 …等

- ・ 広告との競合
- ・ 維持管理やコストを考慮した表示方法 …等

- ・ 天井高さや柱の位置などに応じた掲出位置
- ・ 他社間、部門間での調整 …等

## 本WGにおける調査内容(案)

---

# 今年度WGにおける調査方針

## 過年度調査結果より...

- 「サインのわかりにくさ」の要因は多岐にわたっており、過年度調査の結果からはガイドラインにおいて見直すべきポイントを選定することが難しい。
- 当事者の困りごとから深堀する必要があるものの、障害特性に加え個人の特性(利用頻度等)の影響も大きいと思われ、調査には学術的な検証なども必要となる。



## 今年度WGにおける調査方針

### 事業者が「ガイドラインに記載のない方法で工夫した事例」に着目

#### R5年度の事業者に対する調査で挙げられた工夫

- ・柱や壁を活用した誘導サイン
- ・壁面全体を活用した位置サインや誘導サイン
- ・床面を活用した誘導サイン、誘導ライン 等

ガイドラインでは、誘導サイン・位置サインは

- 表示面は動線と対面する向き
- 視認位置からの見上げ角度が小さく、かつ車椅子使用者でも混雑時に前方の歩行者に遮られない高さ

とされているが、上記以外の事例が複数あり

⇒ 現行のガイドラインではどのような点に対応できていないのか？  
工夫の方法は適切か、新たな課題は発生していないか？  
ガイドラインに追記等すべき内容や、今後詳細に調査すべき点を検討

# ガイドラインに記載のない方法で工夫している例



点字ブロックの中央に緑色のラインを引き、分岐点や曲がり角の床面にエレベーターの方向等を示す誘導ラインを設置



改札口からエレベーターへの導線上の床にエレベーターへの大型誘導標を設置



天井が高いため、維持管理やデザインの観点から吊り下げ式を避け、柱や壁を活用した貼り付けサインとしている



柱全体を利用したサイン。トイレ内の設備についてもピクトグラムで表示。



主にターミナル駅で天吊/壁付型誘導サインの誤認防止のために床サインを設置。主に路線名とエレベーターのみの誘導を掲載



改札出口や改札内において、新幹線、バス、タクシー、地下鉄のりばへの床面案内サインを整備

# 調査方法及びスケジュール

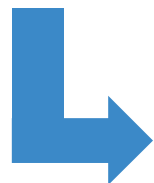
## 調査方法

### ①工夫事例の調査・選定

- 過年度調査やデスクトップ調査から工夫事例を収集
- バリアフリールートやバリアフリー設備の誘導に特化した事例、障害当事者が参画している事例など、当事者目線でサインのわかりやすさ向上に取り組んでいる事例を1～2駅選定

### ②ヒアリング・現地確認の実施（1～2月）

- 選定した事例について、事業者へのヒアリング及び現地確認を実施
- 以下の視点で事例の実態を整理
  - \* どのような空間に、どのような課題があり、どのような工夫をしたか
  - \* その工夫はどのような人に、どのような理由で有効か(有効でないか)



### 第2回WG（2～3月）

- ・ヒアリング及び現地確認について整理した内容を報告
- ・ガイドラインに追記等すべき内容や、今後詳細に調査すべき点を検討